

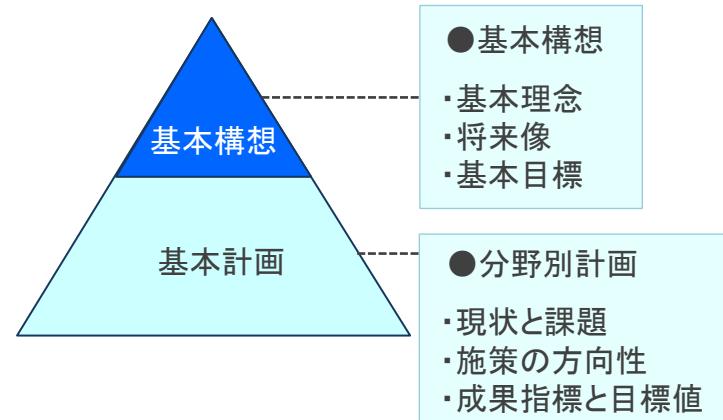


多様な世代の市民の皆さん約50名が、意見を出し合いました。



第2向日向市総合計画とは

総合計画は、市の最上位計画であり、総合的かつ計画的な市政の運営を図るために策定します。
また、市民の皆さんと市が互いを尊重し、目指す将来像の実現に向けそれぞれの役割に応じてまちづくりを進めるための「市民共有」の指針として策定します。



基本構想 平成29年度～令和6年度

前期基本計画
平成29年度～令和2年度

後期基本計画
令和3年度～令和6年度

第2向日向市総合計画は、基本構想と基本計画で構成されています。
基本構想は平成29年度から令和6年度までの8年間、基本計画は4年間ごとに、前期基本計画と後期基本計画に分かれています。

各班で意見交換を行いました

1班 日向市の強みを活かして楽しめるまちへ

◆ 各ラウンドでの意見交換

第1ラウンドでは、自然、食などが日向市の魅力として挙がりました。

第2ラウンドでは、食や公共交通に関するテーマで意見交換を行いました。

第3ラウンドでは、日向市の長所・魅力をまちづくりにどのように活かしていくのかという視点から議論を進めました。

◆ テーマ①

食・暮らし・自然・人の視点から、日向市の魅力を一人ひとりが活発に提示しました。特に、自然の分野では、サーフィンを始めとしたスポーツ・レジャーに関わる人や環境について活発な議論が展開され、日向市の長所や魅力を整理しました。

◆ テーマ②

保健・福祉・医療環境や防災施設の整備など「人にやさしいまちづくり」「災害に強いまちづくり」を進めていくこと、また、スポーツ・観光・レジャーの充実を図ることが「10年後の日向市の住み良さ」に繋がるとまとめました。



2班 日向市の魅力と10年後の日向市

◆ 各ラウンドでの意見交換

第1ラウンドでは、自然や人が日向市の魅力として挙がりました。

第2ラウンドでは、学生や子育て世代の視点から「住みやすいまち」の条件について検討しました。

第3ラウンドでは、強みを生かした「住みやすいまち」について議論を進めました。



◆ テーマ①

人・自然・施設・食などの視点から日向市の魅力について整理しました。特に、「海」は、サーフィン等のマリンスポーツ・レジャーだけではなく、海産物など食の魅力にもつながっていることから、「海」が日向市の強みであるとの意見がありました。

◆ テーマ②

サーフィンをしない人でも、海を身近に感じ、行ってみたいようなエリアに変わることで、公共交通機関の利便性が向上することが「10年後も住みたい日向市」に繋がると整理しました。

第1回“ひゅうがの未来”づくり市民ワークショップを開催しました

第2向日向市総合計画・後期基本計画に向けて、第1回“ひゅうがの未来”づくり市民ワークショップを開催しました。全4回に渡ってワークショップを行い、市民の皆さんの意見を後期基本計画に広く反映します。

	テーマ
第1回	私の住みたい10年後の日向市
第2回	「未来へつなげる人づくり～郷土愛を持った、元気な若者を育てるために」
第3回	「活力を生み出すにぎわいづくり～若者が魅力を感じるまちになるために」
第4回	「笑顔で暮らせるまちづくり～誰もが安心して住みたいまちになるために」

今回のテーマとプログラム

「私が住みたい10年後の日向市」をメインテーマに、第1ラウンドで6つの班に分かれて意見交換を行いました。

第2ラウンドでは、メンバーを入替えて意見交換を行い、第3ラウンドで元の班に戻ってまとめを行いました。

「私が住みたい10年後の日向市」ってどんな街だろう？

テーマ① 「日向市に住んで(来て)みて良かったところ」

テーマ② 「私が住みたい10年後の日向市」

プログラム

- ・開会のあいさつ
- ・WSの説明
- ・アイスブレイク
- ・第1ラウンド
- ・第2ラウンド
- ・第3ラウンド
- ・全体共有
- ・総括

3班 人と人、人と自然をつなぐ豊かな日向市を守るために

◆ 各ラウンドでの意見交換

第1ラウンドでは、日向市の魅力・強みとして、豊かな食や自然資源、人の温かさなどが挙げられました。

第2ラウンドでは、自然保護や若者の移住・定住促進に関する未来像が示されました。

第3ラウンドでは、暮らしやすさの観点から日向市の魅力・強みをまとめました。



◆ テーマ①

食・環境・人の観点から、日向市の魅力と定住のメリット等について整理しました。特に、食に関してはメンバー全員が魅力と考えており、今後のまちづくりや移住・定住推進の大きな強みであるとの認識を共有することができました。

◆ テーマ②

交通手段確保によるアクセス・利便性の向上や生活情報・行政情報を誰もが入手できる環境整備が、多様な市民が暮らす「10年後の住みたい日向市、住みやすい日向市」に繋がると確認しました。

5班 豊かな自然と人の温かさを次世代に継承するために

◆ 各ラウンドでの意見交換

第1ラウンドでは、豊富な自然や、農林水産物等の食、人の温かさが日向市の強みとして挙げられました。

第2ラウンドでは、娯楽施設の誘致を進めてはどうかという意見や、今の自然を将来に繋げたいという意見が出されました。

第3ラウンドでは、美しい自然等、次世代に継承すべき日向市の魅力について意見をまとめました。



◆ テーマ①

食・自然・人・街といった日向市の独自の魅力についての意見の整理と集約を行いました。特に、将来、日向市が発展しても現在の美しい自然をしっかりと継承すべきという思いを共有することができました。

◆ テーマ②

美しい自然を将来につなげることで、高齢者も若者もやりがいを持ち働き続けられる環境が整備されることが「10年後も住みたい日向市」に繋がると整理しました。

4班 日向の魅力を未来に活かす

◆ 各ラウンドでの意見交換

第1ラウンドでは、市民の人柄の良さやコンパクトシティで生活しやすいこと、ソウルフード(天領うどん)が、日向市の良さとして挙げられました。

第2ラウンドでは、素晴らしい自然や、若者が戻りたいと思えるような地域にしたいという未来像について話し合いました。

第3ラウンドでは、挨拶や会話が深いなど日向市の人の温かさについてまとめました。



◆ テーマ①

日向市の魅力として、食べ物がおいしいこと、人柄の良さという点に意見が集約されました。

食と人は、今後のまちづくりや定住を促進するうえで武器であることをメンバー間で共有しました。

◆ テーマ②

「現在の日向市の良さを未来の日向市の魅力につなぐ視点が重要」という意見から、食・自然・人等の日向市の魅力を10年後も継承するとともに、新たに若者が楽しめる場所を創出すべきであるということを確認しました。

6班 コンパクトシティを見据えた日向市について

◆ 各ラウンドでの意見交換

第1ラウンドでは、安心して新鮮な食、豊かな自然、人と人の繋がりが深いことを強みとして整理しました。

第2ラウンドでは、若者をはじめとする市民の集まる場所情報発信力の強化が課題としてあがりしました。

第3ラウンドでは、若者が魅力を感じるまち等について意見を取りまとめました。



◆ テーマ①

豊かな食、自然、人の温かさ、イベントが多いという4つのポイントを整理しました。メンバーに移住者もいたことから、人の温かさにつながりが日向市の1番の魅力という意見で一致しました。

◆ テーマ②

人口の社会減の問題について、若者が魅力を感じる最新の情報や「もの」に触れる機会があるまち、自分の生活圏内で快適に暮らすことが出来るコンパクトシティを目指すことが「10年後も住みたい日向市」に繋がると整理しました。

ファシリテーター・桑野教授からの講評



さまざまな世界観に出会える“ワールド・カフェ”

第1回目は“ワールドカフェ”方式で参加していただきました。カフェスタイルのリラックスした雰囲気の中で、他の参加メンバーの異なる「世界観」や「未来観」に出会い・共感していただくことを目的としました。

今回は、高校生からシニア層まで、多様な年代・職業の方に参加していただきました。短い時間ではありましたが、

ワークショップを通じ、参加された方は等しく、多様な世界観にふれ、有益な刺激を受けたことと思います。

特に、高校生の皆さんの柔軟でユニークな世界観や、今後の日向市を見つめる未来観を知ることは、他の年代の皆さんにとっても貴重な経験になったのではないのでしょうか。

多様な参加者の意見集約

第1回目のワークショップでは次のような感想を持ちました。

第一は6つの班それぞれで良好な人間関係、信頼関係が形成され、適切なチームワークが生まれていたことです。これが建設的な議論や意見の集約に結びついていると感じました。

第二は日向市の魅力・強みに対する参加者の共通理解が得られたことです。海、食、人といった参加者の意見が一致する日向市の魅力や強みが提示された一方で、年代や立場・視点で異なる魅力・強みもしっかりと提示していただきました。ここで提示していただいた日向市の魅力・強みが次回のワークショップでも重要な検討の素材になると思います。

第三は10年後の日向市を考えるうえでのまちづくりの問題点や課題が各班の議論から見えてきたことです。次回以降のワークショップでは、こうした問題点・課題などについても掘り下げていきたいと考えています。

■プロフィール

桑野 齊(くわのひとし)
宮崎大学地域資源創生学部教授

※宮崎大学桑野ゼミの学生も参加しています。

第2回市民ワークショップについて

第2回は、教育や子育て、地域づくり人材の育成など、10年後の日向市を見据えて、未来を担う“人”を育てるために必要なことについて意見交換を行い、問題点や課題等を掘り下げ、その解決策を考えます。

・テーマ 「未来へつなげる人づくり」

～郷土愛を持った、元気な若者を育てるために～

・日時 令和2年2月29日(土) 13時30分から

・場所 日向市役所1階 市民ホール

※新型コロナウイルスの影響で中止になりました。第3回は4月11日(土)に開催予定です。

“ひゅうがの未来”づくり市民ワークショップ 参加者アンケートのまとめ

■テーマ 理想の姿

※第1回WSの意見を基に設定

高齢者や若者、障がいのある人など全ての人が、やりがいを持ちながら、生き生きと働いているまち

【就業・雇用】

若者同士の交流が盛んで、魅力ある場所や交流拠点があり、人と人との交流が生まれ、活気ある元気なまち

【交流】

美しい自然や食、スポーツなどに魅力を感じる観光客が増え、地元の人と仲良くなって、移住する人が増えているまち。

【観光振興】

市民の環境保全活動によって、海や山、川など、美しく豊かな自然が引き継がれ、自然の中で健康に暮らせるまち

【環境保全】

市民の防災意識が高まり、災害時でも互いに助け合い、安全で安心して暮らせるまち

【防災】

地区の祭りや清掃活動などに住民が参加し、住民同士の繋がりが保たれ、互いに助け合いながら暮らせるまち

【地域自治】

■現実とのギャップ

○大学卒業後スキルを活かせる職場が少ない
○年齢に関係なく働ける環境が整っていない
○若者の県外就職が増加
○女性や障がい者が自立できる職場が少ない

○自治会活動が衰退
○中学や高校、大学と市外に進学する人が増加
○若者同士が交流する機会が減少（SNS等の普及など）
○公共施設が老朽化

○観光客等による消費が増えていない
○日向市の魅力が十分に伝わっていない
○魅力を感じる場所や宿泊施設が少ない
○誘客コンテンツを提供する企業が少なく
○移住する人が少ない

○自治会活動が衰退（高齢化などにより清掃活動やごみ出しが困難など）
○耕作放棄地（田畑・山）が増え、荒廃している
○自然への関心が希薄化
○ファーストフード店やコンビニが増加している

○自治会活動が衰退
○消防団の団員不足や高齢化、必要性が認識されていない
○高齢者同士で支えあわなくてはいけない状況
○災害への危機意識が低下し、防災訓練の参加者が少ない

○自治会活動が衰退
○地区の活動や祭りなど担い手が減少している
○出て行った人（若者・退職後）が帰ってこない
○未加入者が増加
○地区の交流行事が減少
○自治会活動に参加する時間的余裕がなくなっている

■改善点課題等

●障がい者も活躍できる労働環境の整備
●女性や障がい者、若者が働きやすくなる企業誘致
●女性の負担を軽減するための制度や環境の整備
●退職後も高齢者が働ける環境の整備
●地元企業の成長促進

●若者が交流できる機会づくり（祭りへの参画や青年団活動での交流等）
●若者が魅力を感じる進学先を創出
●施設の利用促進（誰でも使えるよう、ポスター等による啓発等）
●公共施設の在り方の検討

●情報発信の強化
●地元の人々が魅力を知る
●他地域との差別化（日向市独自のもの）をつくる
●誘客コンテンツを提供する企業・組織づくり
●移住者の受け入れ体制の強化（働く場所や子育て支援、地域との関係など）

●環境教育やSDGs活動の普及
●農地の譲渡の簡素化
●農作業の法人化や共同作業の推進
●自然での遊び方や場所等を学ぶ機会の創出
●教育や地区の活動での市の自然環境の活用

●防災教育・防災訓練等への参加者増
●地区内の交流の活性化
●災害時の高齢者や災害弱者の円滑な避難確保
●時代に合う消防団の役割の検討と機能強化
●ハード整備や技術革新を活用した防災力向上

●地域の交流機会の増加
●時代に合う自治会（地域）運営の在り方の検討
●伝統芸能について学ぶ機会の創出
●住人と各種地域団体との連携強化
●自治会活動の内容の見直しやメリットの発信

■今回の最重要課題

女性が、生き生きと仕事をしやすい環境を作るために、家事や育児等の負担を軽減する

若者同士が交流する機会を増やすため、若者自ら交流できるイベントや場所などをつくる

市民が、地元の魅力を再認識・再発見し、日向にしかない魅力の情報発信を強化する

子ども達が、自然の中で遊ぶ場所や方法を学び（知る）、郷土の自然への興味関心を高める

自助・共助の意識を高め、備蓄や避難路・場所の確認をするなど、災害に備える家庭を増やす

自治会（区）への加入者を増やし、地区（地域）の活動へ参加する子どもや若者を増やす

■行動の提案（アクション）

【行政】
■テレワークへの取組
■女性の雇用ニーズの把握と誘致
■働き方改革の機運醸成

【行政】
■イベントのPR・情報発信
■くつろげる場づくり
■活用しやすい交流の場・施設づくり
■若者の活動支援

【行政】
■広報動画、ポスター、キャッチコピー等の企画・制作
■体験型イベントの実施
■市民と観光客との交流の機会づくり
■子どもサーフィン体験実施

【行政】
■海岸清掃等の環境保全ボランティアの企画・組織化
■外で遊ぶ日の制定
■自然の楽しさや危険性を伝える講話開設
■身近な公園の整備
■SDGsの普及啓発

【行政】
■啓発、防災講座の参加者増の企画、避難訓練の実施時間帯の検討
■備蓄バックの各家庭配布
■災害経験談等の講演会
■被災を想定した講習会
■消防団機能の見直し・強化

【行政】
■各地域の神社・仏閣等の資料をまとめて残す
■自治会の役割を理解してもらうための情報提供
■区と行政の役割やあり方の検討や協議
■区活動のメリットの提供

【市民】
■行政へのテレワーク推進の働きかけ
■民間による市民へのパソコン利用の働きかけ

【市民】
■イベントへの積極的参加
■同窓会での帰省時割引イベントの実施
■オンライン同窓会の実施

【市民】
■地域の魅力を知る
■イベント運営等への参加
■SNSでの拡散（大人目線、子供目線での作成）
■行政の意図を理解したテーマ性のある活動

【市民】
■環境保全や景観ボランティア等への積極的な参加
■自然の中で遊ぶ企画
■自然の楽しさを伝える
■子どものゲームやスマホの使用時間を管理

【市民】
■避難訓練参加の義務化と啓発動画を視聴
■防災組織の設置とその稼働、災害時の役割分担
■消防団による講習会や勉強会等の実施

【市民】
■地域の伝統文化を学び、将来に残し、発信する
■親子に地区の活動の紹介
■時代に合わせた自治会の運営方法（行事等）の検討
■80歳以上は清掃活動免除

第1回アンケート

第2回アンケート